

キラリ レポート

市民編集委員の
視点から

竹下江里子さん

～清瀬の農業を支える新しい風、そして私たちにできること～ 野村ファーム

清瀬市で売られている野菜に記された「清瀬ベジフルパーティー」のロゴマークをご存じですか？ 高品質で採れたての野菜を届けようと清瀬市の若手農家が集まった出荷組合です。今回ご紹介する野村浩敬さん^{（こうけい）}も、その活動に参加する熱意あふれる若手農業家です。農業を取り巻く環境が厳しくなるなかで、新しい取り組みや清瀬の農業の未来について話をお聞きました。



ベジフルパーティーのロゴ

都市近郊農業のまち 清瀬

下清戸にある畑を家族4人で経営している野村さん。元々はほうれん草・人参・大根を栽培していましたが、ベジフルパーティー加入後にブロッコリーや枝豆・バジルなど新しい野菜にも取り組み始めました。

新しい野菜をつくり始めた理由をお聞きすると、「昔と比べ取引先が、直に商品を卸す仲卸やJA直売所に変わり、求められる野菜も時代とともに変化してきたから」だそうです。なかでも、通年栽培している小松菜には並々ならぬ熱意をお持ちです。

失敗の連続から

21歳で飛び込んだ農業の道も始めたころは失敗の連続で、ビニールハウス棟分の小松菜を無駄にしたこともあったそうです。一番苦労することは、「年間途切れずに同じ野菜を出荷し続けること」と野村さん。

年間のスケジュールはありますが、そのとおりにいかないのが野菜です。天候に大きく左右され、同じビニールハウスで同時にまいた種でも、場所によって差が出てしまうことも。そこで大切なのが自分の「感覚」だそうです。失敗で得た経験から、「いつ種をまくか？ いつ収穫するか？」といった感覚をつかめるようになって、初めて農業が楽しいと思えるようになった」と話してくださいました。



収穫の様子



野村ファームの小松菜

今では、同じ小松菜であっても5品種を栽培されています。例えば、春は「とう立ち（花を咲かせる茎が伸びること）が遅い品種」、夏は「暑さに強い品種」と細かく分

けることで、年間をとおして安定供給できるそうです。野村さんは「そのことで、この畑は化学肥料を4分の1に減らせたんです。」と嬉しそうに語ってくれました。私たちが食べている安全安心な小松菜は、野村さんたちのような農家の長年の努力によって食卓に届けられています。

これからの農業と「清瀬ベジフルパーティー」の役割

平成25年に7農家で始まったものが、今では19農家に広がっています。しかし今後は少子高齢化で、家族だけで経営するのは厳しい農家もあるそうです。野村さんは清瀬ベジフルパーティーの仲間同士で支えあい、守っていきたくて考えています。農業に従事している者だけでなく、家族ぐるみの付き合いを大切にすることで、後継者の育成にも力を入れています。

また、ベジフルパーティーは「東京野菜の都産都消」も進めています。生産者と消費者が近いということは、輸送コストがかからないためCO2の排出も抑えられます。新鮮でおいしいだけでなく、環境にも優しい野菜づくりを広めていきたいそうです。現在、JGAP（※）の取得に向けて取り組んでいるのでご期待ください。

私たちにできること

農業を続けることは容易なことではありませんが、野村さんのように品種を見直したり、自ら販売経路を広げようと活躍される方も増えています。

生産者がお店での売り方で考えられること、消費者と生産者の距離が近いことが、都市近郊農業のまち清瀬の良さです。おいしい清瀬の野菜を赤ちゃんのころから食べている我が子にとって、それが「当たり前」の味になっていることを誇りに思いました。清瀬の野菜を食べること。それが清瀬の農業、環境を守るため、私たちができる第一歩なのではないでしょうか。

※JGAP（ジェイギャップ）…「食の安全」や「環境保全」に取り組んでいることが、第三者機関の審査により確認された農場に与えられる認証です。良い農場の目印（日本GAP協会ホームページより抜粋）



ベジフルパーティーのロゴ入りの袋に入ってお店へ

消費生活相談の 現場から

スマートフォンが
100円で買えるという
ポップアップは詐欺です！

【事例1】

スマートフォンを使用していたところ、突然「おめでとうございます！ スマートフォンが100円で買える権利が当たりました」というポップアップ画面が表示された。5分以内に申込みをしないと当選した権利が失われると書かれていたので、急いで住所、氏名、クレジットカード情報を入力した。

その後、申込先と思われる海外事業者から100円の他に1万円を課金するという英文メールが届き、不安になった。スマートフォンが手に入らないのは仕方ないが1万円は払いたくない。

【アドバイス】

パソコンやスマートフォン使用中に突然ポップアップ画面が現れ、さまざまな手口でクレジットカード情報を入力させられるトラブルが後を絶ちません。

以前、パソコンがウイルス感染したと騙し、必要の無いウイルス対策ソフトを購入させようとする手口を「消費生活相談の現場から」（平成30年10月1日号）に掲載しています。最近はこの事例のよう



に人気の端末が安価で手に入ることを餌にクレジットカード情報を入力させようとする新しい騙しの手口が増えています。また、同様の手口に騙され、申込んでいないサービスの利用料を継続的に請求されるトラブル事例も報告されています。

冷静に考えれば応募していないのに当選するはずがありません。うまい話はないと肝に銘じ、安易な申込みは避けましょう。万が一被害に遭ってしまった場合は早急に申込んだ事業者へ解約申し出を行いましょう。また、クレジットカード決済については消費生活センターを通じて支払い停止の申し出をすることも可能です。不明点があれば相談してください。

☎消費生活センター ☎042-495-6212（相談専用）



第5回 松山
清瀬駅南口

「南口祝開通」の文字が示すように、清瀬駅には当初、北側からしか出入りできませんでした。

昭和42年11月、線路をまたぐ人道橋ができ、南口が開通。改札を出た後、踏切を渡らなくても線路の南側に行けるようになりました。

この年の夏には、清瀬駅南口の商店会も組織されています。南口には広場もつくられ、小金井や久米川に行くバスが南口広場から出

るようになりました。

写真は昭和42年ごろの南口の商店街の様子です。現在の「南口ふれあいど〜り」と「アイラ通り」が交差するあたりから、駅を背にして写したものです。大衆食堂の前、風呂敷包みを抱えて駅方向に向かう男性や、それに続く人々は、通勤途中でしょうか。

清瀬が市になった昭和45年には、改札の位置も変わり、現在と同様の橋上駅になりました。



新たな『清瀬市史』の編さん事業を行っており、昭和・平成の清瀬の写真を集めています。ご協力ください。*今までの収集資料に基づき市史編さん室が記事を担当しています*

2月のびん・かん 収集について

2月11日(火)・25日(火)の下宿、旭が丘、中里四丁目～六丁目、2月12日(水)の元町一丁目、上清戸、中清戸、下清戸、中里五丁目の一部はびん・かんの収集を通常どおり行います。☎ごみ減量推進課ごみ減量推進係 ☎042-493-3750